

第6回 新居浜市立地適正化計画策定委員会 議事録

1 日 時 令和6年10月29日（火）14時から15時まで

2 場 所 市役所消防防災合同庁舎 5階 災害対策室

3 出席者 10名

坪田 隆宏（愛媛大学大学院理工学研究科 准教授）

早瀬 伸樹（新居浜工業高等専門学校 副校長）

星加 勝一（新居浜市連合自治会 副会長）

藤田 敏樹（新居浜商工会議所 専務理事）

藤田 幸正（新居浜市農業委員会 会長）

政石 信行（愛媛県建築士会新居浜支部 理事）

黒光 恵 （市民委員）

高橋 宣行（建設部長）

小澤 昇 （危機管理監）

三並 弘昭（政策推進室長）

4 事務局 4名（都市計画課）

町田 京三 （課長）

井手 義治 （技幹）

庄野 仁規 （副課長）

三並 真由美（副課長）

5 議事内容

※会議の進行については、坪田委員長が所用により会議に遅れて出席されたため、副委員長の早瀬委員が委員長となって進行した。

■次第1 取組スケジュール

【政石委員】

自治会館の耐震化と公民館のバリアフリー化補助について違和感がある。バリアフリー化については、どこまでのものを指しているのか。

【事務局】

公民館の耐震化については、避難所としての耐震基準を満たしているが、施設整備については耐震化だけではないので、バリアフリー化となるには長期的な整備となるという事で取組の設定をしている。

【藤田_幸委員】

自治会館が自主避難場所となるのであれば、市へ寄付採納をされたりする割合はどうか。

【事務局】

把握している限りでは、自治会が所有しており、寄付採納をしているところは少ないという認識でいる。

【藤田_幸委員】

公共だけでなく避難所として指定されているところも、バリアフリー化は遅れているのではないか。

【事務局】

色々な施設はあるが、まずは各地域にある公民館からバリアフリー化を重点的に進めていきたいという事である。

【星加委員】

自治会館の耐震化については、自治会自体の財政難と市の財政が悪化していることで、5年以内に全部の自治会館に耐震化を終えるのは難しいと考えるが。

【事務局】

全自治会館が5年でできるとは思っていないが、5年を目標に進めたいと考えている。また、継続して進めていくことも考えて、その後を点線表記している。

【政石委員】

避難場所の整備で、マンホールトイレの整備が20年の長期にわたっているが、何基あって、何年までに何基増やしていく、最終はここまで増やすという、数値的なものを謳わないといけないのではないか。

【事務局】

令和元年現在の整備は1か所であるが、増やしていつている。ただし整備費用も掛かるため、20年の長期スパンで整備するように記載している。

【政石委員】

避難所に、安くても簡易的でも、マンホールトイレの数があることが大前提である。短期的に、全整備するという事が入ればいいと考える。

【早瀬副委員長】

実現時期については、誰が、どこまでという、そもそもの基準は決められているのか。

【事務局】

実施するそれぞれに担当課がある。その担当課によって、整理をしており、目標値があるものと、明確には無いものがある。明確に目標値があり達成できそうなものや直ぐに取り組めるものは短期の5年、全てを実行するには難しいものは、長期としている。

【早瀬副委員長】

それぞれの部門で計画をされているということか。

【事務局】

各担当課で計画をしているところである。

【政石委員】

単年度予算で対応している耐震診断、耐震工事の補助について、暦年予算としていただきたい。また、老朽危険空家に限らず避難路などにも補助や対策がされることを要望する。

【事務局】

耐震診断等は、本市では単年度予算となっているが、国の補助などの制度も確認したうえで暦年での補助について検討させていただければと思う。

【政石委員】

耐震診断、耐震工事については、マンパワー不足も生じていることから、暦年補助など融通がきけば、より短期で進められると記載してもいいかと思う。

【事務局】

補助の制度上の事もあるため、短期の5年と致したい。ただし、空家については直ぐに終わるとは思っていないので、継続の点線表記をしている。

■次第2 防災まちづくりにおける目標値

【早瀬副委員長】

ソフト面での指標の満足度について、目標値を10%上げた根拠と理由は。

【事務局】

30項目程度ある市民アンケートに、防災に対する満足度がある。その結果の数値を用いており、数年間のデータから、満足度が30%を超えていないことと基準年の1.5倍程度であるという事から、10%上昇させた30%を目標値としている。

【政石委員】

満足度自体が漠然としており、何をすれば上がるのか、はっきりしないものを目

標とすることは間違っていると思う。耐震診断後の、耐震化率など、物理的なデータの方が目標値としては、いいかと思う。

【事務局】

そういったデータを総じて、目標値を設定している。ハード整備の数字を目標にすると、整備することが目標となり、それにより安心、安全であると思われてしまう事から、ソフト面からも目標となる数値を選ぶことがいいのではないかと考えている。さらに、全災害について、市民の皆さんがどのように思っているかという事を満足度という数値で把握するという意味で、設定しているという事が今回の趣旨である。

【政石委員】

アンケートを取る時に、数年間の実績データを見せてからアンケートを取れば、多分、30%は超えると思う。それを見ずに、災害直後にアンケートを取れば落ちる。目標値として掲げる意味が分からない。

【藤田_幸委員】

立地適正化計画は、人口減少の中でコンパクトなまちづくりをしていこうという事で、あまり細かく設定をすると難しくなるし、ぼんやりとしたものであると、余計わかりにくくなる。継続していければ、目標値の方向になればいいな、くらいの感じでいいのではないかとと思う。

【坪田委員長】

目標値の「満足度」については、ソフト面を評価するものだと思っており、本来は、災害が来てもハード面が整っていて、市民が意識しないことがベストであると思う。ソフト面で認知していただいた上で、満足度が上がることが大事であり、ハードを固めてもリスクは絶対にあることを認知していただく必要がある。

p 4 2 防災体制の強化の中では、防災訓練、防災計画の充実、防砂マップの活用が挙げられている。その辺の達成度を何とかして図ることができればいいと思う。例えば、自分の住んでいる地域のリスクを防災マップで認知していることで、災

害リスクを認知しているといったデータを取っていけば、次回改定の際に、よりソフト面を評価できるようになる指標を得られるのではないかと考えている。

【事務局】

今すぐの基準値は無いので、アンケート項目に含めていくことを検討していきます。

【高橋委員】

「満足度」は、どうすれば上がるか、上げるためにはどうすべきか、という話では無く、何も意識しないうちに「なんとなく住みやすいよね」となれば、自然と上がってくるのではないかと。最近よく言われる、住みたくなるまち1位というのは、何か課題があってクリアすれば住みたくなるというものではなく、イメージとして「全体的に何となくこのまちはいい」というのがあるので、色々なものを取り込んで、数値として表せるものとしては、この「満足度」しか、今のところ設定ができないと考えている。

【藤田敏委員】

個人的には、取組スケジュールを完全に実行していければ、10%増ということではなく、もう少し高くなるのではないかと考える。だから、スケジュールを完全にするという強い意志のもと、目標値を挙げた方がよろしいのではないかと考える。

【星加委員】

このように数値を出せば根拠を問われる。はっきりとした根拠がないのであれば、数字でない方法で評価する方法も考えてみたらいいのではないかと考えるが。

【事務局】

基本的に、目標値は「数値」でされているものであるため、何らかの数値を示したいと考えている。満足度の30%の明確な根拠はないが、現在までの一番高いデータより、高い数値を示しているという事ではある。

【政石委員】

アンケートの手法は、○×か、それとも達成度を%で確認しているのか。

【事務局】

アンケートは、満足、やや満足、どちらともいえない、やや不満、不満の5段階評価である。

【政石委員】

5段階評価で、丸がついたものを数値化しており、現在の規定値としては、20%なのか。

【事務局】

満足とやや満足を足して、20%となっている。

【政石委員】

もう少し、数値が入ってもいいような気がします。

【藤田幸委員】

一つの目標とすると、数値で表す方が表しやすいというか。

【政石委員】

数値を合わせないと、何のための目標という事になる。

【藤田_幸委員】

数値があるから判りやすいといこともあるのではないかと思う。あまり高すぎると、最初から諦められる。新居浜の場合は、本当に災害が無い。平成16年の集中豪雨ぐらい。だから災害に対して、市民も感覚的に捉えにくいのではないかと思う。かといって、みんな、結果論で言うので「こうする」「こうやる」という事を表さないと、市民にも感覚的に受け取れられにくいと思う。

【早瀬副委員長】

数値を上げるにしても、中々根拠がない。

【高橋委員】

スパンが長いので、R5 から R7 の間にも、見直しは入ってくるかと思う。事務局も言っていたように、この数値は、何かがあると簡単に上下してしまう特性があるので、今の段階では30%にさせていただいて、次の見直しの時までには、30%を大きく超えるような事があれば、もっと高い目標値に設定することも必要かと思う。今は根拠がないので、30%に設定でいいのかと思うのですが、いかがでしょう。

【早瀬副委員長】

そういうご提案ですけれども、中々根拠がなく数字を出しづらいので、事務局で検討された30%で行かさせていただいて、何年か後の見直しの時に、満足度調査を素に、数値を上げるなら上げるという事でいかがでしょうか。

【委員】

はい。

【早瀬副委員長】

はい、ありがとうございます。

■次第3 今後の予定

今後の予定については、意見なし。

以上